
1 上下水道局の令和8年度予算編成の基本方針

平成20年（2008年）4月以来、18年ぶりとなる本年4月からの水道料金及び下水道使用料の改定によって、本市の上下水道事業の収益構造は現状からの改善が期待できます。しかしながら、依然として、少子化の進行や東京圏への人口流出に伴う人口減少が続いていることに加え、数年後には世帯数がピークを迎えた後、減少に転じることが予測されており、収益面への影響は避けられないものと考えます。

一方、エネルギーコストは高い水準で推移し、薬品費や資材価格、労務単価等の上昇も見込まれるため、今後も厳しい経営環境が続いていくことに変わりはありません。

こうした状況下にあっても、市民生活や社会経済活動を根底から支える基盤としての上下水道事業の使命を果たすため、上下水道インフラの点検・修繕などメンテナンスの強化、またインフラの老朽化対策や地震対策、浸水対策等の着実な推進が求められます。

このため今後の事業運営においては、収益の確保を図る一方、徹底した経費の削減や業務の効率的執行に努めるなど、不断の経営努力に一層取り組んでまいります。

令和8年度予算においては、強靱で持続可能な上下水道システムの構築に向け、計画最終年度を迎える「富山市上下水道事業中長期ビジョン」（計画期間：平成29年度～令和8年度）や昨年2月に策定した「富山市上下水道耐震化計画」（計画期間：令和7年度～令和11年年度）を踏まえ、効果的・効率的な事業執行に努めつつ、将来を見据えた投資を積極的・計画的に行うことにより、信頼される富山市上下水道事業の構築に鋭意、取り組んでまいります。

2 令和8年度当初予算概要

水道事業会計

(1) 収益的収支

収益については、令和8年4月からの水道料金改定等により、対前年度比で15億5千万円余（うち水道料金増収分は約13億円余）増の91億8千万円余を見込む一方、費用については、エネルギーコストや資材価格、労務単価等の上昇による影響などから、対前年度比で7億1千万円余増の79億8千万円余を見込みました。その結果、当年度純利益は12億円余（税抜純利益8億7千万円余）を計上しました。

(2) 資本的収支

事業の根幹を成す建設改良費については、上下水道耐震化計画などに基づく水道管路等の更新や耐震化事業を推進するため、対前年度比9億8千万円余増の55億7千万円余を計上しました。また、資本的収支の不足額39億5千万円余については、損益勘定留保資金などから補填します。

収益的収支		資本的収支	
収入	支出	収入	支出
91.9億円	79.8億円	39.8億円	79.3億円
お客さまからの水道料金 73.0億円	維持管理費 (浄水場の運転や水道管のメンテナンスなど) 34.7億円	企業債 29.5億円	建設改良費 (水道施設の耐震化や老朽基幹施設の改築など) 55.7億円
その他 18.9億円	減価償却費 (施設の建設に充てた企業債の返済や整備改良に充てる費用) 37.2億円	国庫補助金 6.8億円 その他収入 3.5億円	企業債償還金など 23.6億円
	純利益 12.1億円 (税抜純利益8.7億円)	不足額※ 39.5億円	

※資本的収支の不足額は、減価償却費などの現金支出を伴わない費用から生じる資金などで補てんします。

企業債の利子の支払など 7.9億円

工業用水道事業会計

(1) 収益的収支

収益については、料金を責任水量制としていることから、前年とほぼ同額の4億8千万円余を見込む一方、費用については、水道事業と同様に物価上昇の影響などから、対前年度比で2千万円余増の3億6千万円余を見込みました。その結果、当年度純利益は1億2千万円余（税抜純利益1億1千万円余）を計上しました。

(2) 資本的収支

建設改良費については、令和8年度は施設の大規模改築等を行わず、送水ポンプなどの機器更新を予定しており、対前年度費1千万円余増の7千万円余を計上しました。また、資本的収支の不足額9千万円余については、損益勘定留保資金などから補填します。

収益的収支		資本的収支	
収入 4.86億円	支出 3.63億円	収入 8千円	支出 0.95億円
お客さまからの 工業用水道料金 4.57億円	維持管理費 (浄水場の運転や 水道管のメンテ ナンスなど) 2.06億円	固定資産売却 8千円	建設改良費 0.74億円
	減価償却費 (施設の建設に充てた 企業債の返済や整備 改良に充てる費用) 1.28億円	不足額※ 0.95億円	企業債償還金など0.21億円
その他収入 0.29億円	純利益 1.23億円 (税抜純利益1.19億円)	企業債の利子の支払 など 0.29億円	

※資本的収支の不足額は、減価償却費などの現金支出を伴わない費用から生じる資金などで補てんします。

公共下水道事業会計

(1) 収益的収支

収益については、令和8年4月からの下水道使用料改定等により、対前年度比で14億3千万円余（うち下水道使用料増収分は約12億9千万円余）増の166億6千万円余を見込む一方、費用については、水道事業と同様に物価上昇の影響などから、対前年度比で6億8千万円余増の151億3千万円余を見込みました。その結果、当年度純利益は15億3千万円余（税抜純利益12億8千万円余）を計上しました。

(2) 資本的収支

事業の根幹を成す建設改良費については、上下水道耐震化計画などに基づく下水道管路等の更新や耐震化、老朽化した処理場の改築を推進するため、対前年度比15億円余増の65億4千万円余を計上しました。また、資本的収支の不足額61億9千万円余については、損益勘定留保資金などから補填します。

収益的収支		資本的収支	
収入 166.6億円	支出 151.3億円	収入 80.6億円	支出 142.5億円
お客さまからの 下水道使用料 91.9億円	維持管理費 (浄化センターの運転 や下水道管のメンテ ナンスなど) 52.0億円	企業債 37.0億円	建設改良費 (下水道施設の耐震化や 老朽基幹施設の更新 など) 65.4億円
雨水処理等のための 一般会計からの繰入金 22.1億円	減価償却費 (施設の建設に充てた 企業債の返済や整備 改良に充てる費用) 85.7億円	国庫補助金 25.1億円	企業債償還金など 77.1億円
その他 52.6億円	企業債の利子の支払など 13.6億円	一般会計からの繰入金 17.4億円	
	純利益 15.3億円 (税抜純利益12.8億円)	その他収入 1.1億円	
		不足額※ 61.9億円	

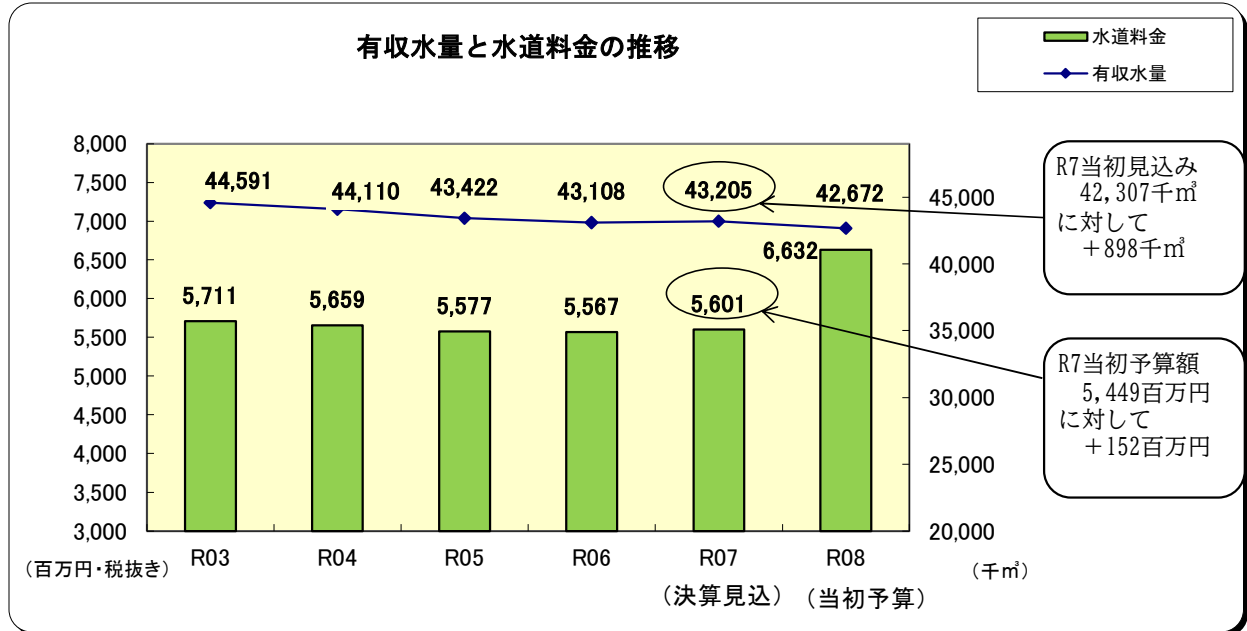
※資本的収支の不足額は、減価償却費などの現金支出を伴わない費用から生じる資金などで補てんします。

3 有収水量と料金収入の推移

(1) 水道

◇有収水量と水道料金の推移（令和7年度は決算見込、令和8年度は当初予算）

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
有収水量（千 m^3 ）	44,591	44,110	43,422	43,108	43,205	42,672
対前年度比(%)		98.92	98.44	99.28	100.23	98.77
水道料金（税抜：千円）	5,710,523	5,658,621	5,576,677	5,567,151	5,601,345	6,631,547
対前年度比(%)		99.09	98.55	99.83	100.61	118.39



(2) 下水道

◇有収水量と下水道使用料の推移（令和7年度は決算見込、令和8年度は当初予算）

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
有収水量（千 m^3 ）	41,687	41,273	40,921	40,686	40,784	40,387
対前年度比(%)		99.01	99.15	99.43	100.24	99.03
下水道使用料（税抜：千円）	7,467,054	7,406,018	7,352,134	7,355,398	7,397,220	8,351,337
対前年度比(%)		99.18	99.27	100.04	100.57	112.90

